
○職務のため出席した事務局職員

| | |
|------|--------|
| 事務局長 | 本間力君 |
| 主査 | 八木橋直紀君 |

◎開会の宣告

○委員長（広地紀彰君） これより、駅北地区観光商業ゾーン整備・活性化促進特別委員会を開会いたします。

（午後 1時40分）

○委員長（広地紀彰君） 本日の委員会の日程等についてであります。

調査事項は、1項目め、観光インフォメーションセンターの入込状況について、2項目め、地域DMO本登録に向けた取組み状況について、3項目め、令和3年度実施事業についてであります。その後、その他について協議を行います。

このことについて町側から説明を受けて質疑等を行います。

よって本日の会議は1日間といたします。ご意義ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） 異議なしと認めます。

それでは、一括して町側から説明をお願いします。

竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 特別委員会の開催にあたりまして、ご挨拶を申し上げたいと思います。

昨年7月に開業いたしました民族共生象徴空間ウポポイにつきましては、入場制限のほかコロナウイルス感染症対策を徹底し教育旅行などの受入れを行い、今日に至っております。本町においてもコロナ禍の中ではありますが、ウポポイの開業を契機として観光入込も増えてきております。コロナウイルス感染症収束後には、現在落ち込んでいる宿泊業も含めウポポイの開業効果を町内全体に波及させ、観光を主軸とした地域産業の活性化に努めていきたいというふうに考えております。ワクチン接種の実施によるコロナウイルス感染症の早期収束を願うとともに、観光客が安心して観光を楽しむことができるよう、魅力のある観光振興に取り組むことといたします。

本日は担当より現在の進捗状況等を中心にご説明をさせていただきます。委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。本日はよろしく願いいたします。

○委員長（広地紀彰君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） ただいま竹田副町長からお話がありましたとおり、ウポポイについてはコロナウイルス感染症の影響を受け、入場制限をはじめとする対策を徹底されてまいりました。そのような中ではありますが、ウポポイにおきましては令和2年度の速報値としまして22万2,000人と多くのお客様をお迎えしたというところでございます。また、本町の観光入込客数については、177万3,948人と前年より約17万7,000人の増加となり、コロナ禍においても観光入込数が増加したところであります。要因はやはりウポポイの開業とともにロングランイベントをはじめとする様々なPR活動により、白老町への関心が高まったものであったのではないかと捉えているところでございます。

本日の説明では観光インフォメーションセンターの入込状況、地域DMO本登録に向けた取組状況、令和3年度実施事業の3項目についてご説明させていただきます。主に現在までのインフォメ

ーションセンターの入込やDMO本登録への進捗状況、またウポポイ開業1周年を迎え、町内活性化イベントを実施することとしておりますので、そちらの説明もさせていただければと思っております。詳細についてはこのあと担当より説明させていただきます。何卒よろしくお願いいたします。

○委員長（広地紀彰君） 久末産業経済課主幹。

○産業経済課主幹（久末雅通君） それでは私のほうから、行政整備区域における活動状況についてご説明させていただきたいと思っております。資料1を御覧ください。最初に観光インフォメーションセンターの入込状況についてでございます。観光インフォメーションセンターは、令和2年4月1日から新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら段階的に営業を開始し、7月4日から通常営業をスタートさせました。7月のウポポイ開業及びロングランイベントの開催に伴い来場者数も大幅に伸び、10月には10万人の来場を達成し、4月から5月までは休業があったものの年間14万人の来場がありました。また10月には大型遊具が完成し、昨年度は短い開放期間ではありましたが多くの親子連れで賑わいが創出されました。

下の表でございますが、月別の来場者数と売上額でございます。来場者数は年間で合計14万264人、観光インフォメーションセンターの売上額が5,685万円となっております。売り上げの主な内訳としましては、食品ではビーフハンバーグですとかサブレが売れているようです。食品以外ではアイヌ文様の刺繍の入ったマスクですとかTシャツが売っております。続きまして、観光案内の利用客数でございます。道外客2,304人、道内客2,751人、町内客1,774人、海外客25人の合計6,854人の利用がございました。来場者数の1日平均でございますが、433人となっております。また、1日当たりの最高来場者数が昨年9月20日のシルバーウィークの時期に2,418人のご来場がありました。大型バスの駐車場収入ですけれども7月12日から3月31日までで515万1,000円となっております、台数としては合計で2,661台が利用されております。

続きまして、資料2の地域DMO本登録に向けた取組み状況についてでございます。令和元年8月に白老観光協会が観光地域づくり法人（候補DMO）として登録されて以降、観光庁において登録制度の見直しや役割、取組内容を具体化したガイドラインが作成されるなど世界水準のDMO形成に向け、本登録の基準が厳格化されております。3年以内の期限が設けられ、本登録を目指すため、登録要件を満たせるよう各種取組を計画推進しております。最近の状況ですが、令和2年10月に先進地視察を実施しております。美瑛町、摩周湖、網走市の各地域における取組内容について成功例や課題のヒアリングを実施してございます。その中でマーケティング、財務面の専門人材登用及び地域内各団体の連携による受け入れ体制整備が必要だと改めて感じたところでございます。

次に白老おもてなしガイドセンターについてでございますが、本年の4月14日に設立されました。登録ガイド数が17名となっております、令和元年度及び令和2年度のおもてなしガイド育成講座を受講した方々が登録ガイドとなっており、これまで学んだ内容から「ポロト自然休養林」や「屋根のない博物館通り」などを中心にガイドを実施することとなっております。事務局を白老観光協会とし、令和3年度は無料でガイドを行うことでガイドの手法やルートの構築を図る予定でございます。また、ガイド人材育成事業につきましても今年度で開催され、新規ガイド希望者の初級コースでは白老の自然、歴史、救護講習などを予定しており、ガイド学習経験者の中級コースでは実地研

修、ガイドのルート考案、話し方講座などを予定してございます。

続きまして、一番下の取組内容のロードマップでございます。令和3年度は白老おもてなしガイドセンターが4月に設立されました。また、今後の予定ですが、地域限定旅行業の申請を9月に、そのほか観光消費動向調査や分析、戦略策定、DMOの戦略協議会の開催やワーキンググループの設置、開催などを予定してございます。また令和4年度では引き続きDMOの戦略協議会の開催やワーキンググループの開催、観光消費動向調査や分析、戦略策定と専門人材登用を行い、8月にDMOの登録申請を予定してございます。

次のページをお開きください。資料3、令和3年度の実施事業についてでございます。こちらについては大きく2つあります。

まず一つ目が町内活性化イベントについてでございます。令和2年度は、7月12日のウポポイの開業日から10月11日までの14週にわたり、毎週土曜日、日曜日、祝日に「しらおいポロトミンタラフェスティバル2020」と銘を打ち、各種イベントを全32回開催いたしました。ただ、荒天で2回ほど中止となっております。イベント開催日の観光インフォメーションセンターへの入場者数の合計は4万6,693人となっております。

令和3年度につきましては、7月のウポポイ開業1周年イベントを予定しており、それを皮切りに夏から秋にかけて月に1、2回程度のイベント開催を予定しております。内容につきましては、ウポポイの開設を契機として周辺の賑わい創出や観光客の回遊性を高めるため、ポロトミンタラにてイベントを開催し、豊かな食資源、特産品、観光資源等を広く発信し、ウポポイの集客と相乗効果を図ることを目的としており、夏から秋にかけて月に1、2回程度、合計で3回から5回程度の実施をする予定でございます。イベントの企画立案、運営と内容調整を業務内容としており、現在プロポーザルで事業を募集している途中で事業者選定プレゼンテーションを5月25日に予定しており、契約締結を6月下旬に予定しております。

二つ目に遊具の設置についてであります。令和2年度は「ふわふわドーム」「クリフクライマー」を設置し、10月に利用を開始いたしました。冬季閉鎖を経て、令和3年4月から春季の利用を開始しておりますが、現在は緊急事態宣言期間になっておりまして、5月18日から利用中止となっております。また、令和3年度につきましては、同エリアで新しい遊具を設置するための準備を進めており、アンケート調査を行った上で設置遊具や保護者の利用を想定したベンチ等の整備を予定しております。

以上でございます。

○委員長（広地紀彰君） ただいま説明がありましたが、本日は項目ごとに質疑を受け付けます。

1項目め、観光インフォメーションセンターの入込状況等について、質疑がございましたらどうぞ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） 質疑なしと認めます。

次に、2項目めの地域DMO本登録に向けた取組み状況について、質疑がございましたらどうぞ。ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） 質疑なしと認めます。

次に、3項目めの令和3年度実施事業について、質疑がございましたらどうぞ。

12番、長谷川かおり委員。

○委員（長谷川かおり君） 遊具の設置についてお伺いします。アンケート調査を行った上で設置遊具や保護者の利用を想定したベンチなどの整備を予定しているということでしたが、こちらのアンケート調査は、どのような方を対象として行われているのですか。今は誰もが遊べる公園づくりといひまして、例えば車いすに乗ったまま遊具を使うことができたり、体を自分で支えることができない子供も、背もたれのあるブランコがあれば一人で遊べるといった公園づくりが全国各地に広がっているのです。障がいを持った子を持つ親も、公園で遊ぶことを諦めている方が多いので、そのような方の声も拾うことが出来るようなアンケート調査を考えているのかどうかについてお伺いいたします。

○委員長（広地紀彰君） 久末産業経済課主幹。

○産業経済課主幹（久末雅通君） 遊具の選定につきましては、現在すくすく3・9（白老町子育てふれあいセンター）の利用者を対象にアンケート調査を実施する予定でございました。これから行う事業ですので、今後は障がい者団体も含めてアンケート調査を実施していきたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員からの質疑を受け付けます。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） それでは質疑なしと認めます。

では、最後にその他について確認や質問漏れなど何かございましたらどうぞ。

8番、大淵紀夫委員。

○委員（大淵紀夫君） 1点目は民間活力導入ゾーンの現状がどのようになっているのか。2点目は、星野リゾートさんはいつ頃のオープン予定ですか。この2点についてお伺いいたします。

○委員長（広地紀彰君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 民間活力導入ゾーンについてですが、簡単にご説明させていただきます。ただいまコロナウイルス感染拡大で緊急事態宣言中ということもありまして、特に飲食や物販、宿泊事業者においては自身の事業を維持していくことに注力されておりまして、なかなか誘致につきましては、働きかけは随時行っておりますが、非常に厳しいという声が聞こえているのが現実であります。ただ、昨年12月の本特別委員会でもお話をさせていただいたとおり、現在も数社と協議をさせていただいております。数少ないところではありますけど言われていることは、コロナウイルスが感染拡大している中で状況を見据えつつ、検討させてほしいというお話もありますのでこちらについては引き続き検討していくことと、他にどういったところがあるのかどうかということも働きかけとして行っていきたいと担当として考えているところでございます。いずれにしてもコロナウイルス感染症が収束しない限りは非常に厳しい状況にあると捉えている所でございます。

また、近郊にできます温泉施設の星野リゾート様ですが、来年の1月のオープンに向けて着々と工事を進められているということでございます。実際には白老町内の食材はどのようなものがあるのですかといった問い合わせや、日帰り温泉の入浴料金について再度確認させてほしいということ

で細かい部分での協議はさせていただいております。できるだけこちらとしても町内の食材を扱っていただくよう事業者のリストを送ったりなど進めさせていただいております。現在、星野リゾート様においても1月のオープンに向けて進めているということですのでご理解いただければと思います。

○委員長（広地紀彰君） 8番、大淵紀夫委員。

○委員（大淵紀夫君） もう1点だけお伺いいたします。星野リゾートさんの件ですけど、以前に宿泊客しかレストランで食事できないといったお話を伺っていたのですが、その辺は現在も同じですか。例えば町内の方がレストランで食事できるといったことにはなっていないのですか。

○委員長（広地紀彰君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） レストランの利用につきましては、再度確認しなければいけない点であると承知しております。大淵委員が言われたとおりに当初はレストランの利用は宿泊者専用ということで、広く皆様に利用していただけるようなレストランを用意する考えは無いということで伺っておりましたので、その点については再度確認させていただければと思います。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員からの質疑をお受けします。

13番、氏家裕治委員。

○委員（氏家裕治君） 1点だけお伺いいたします。民間活力導入ゾーンは、今までの議論の中ではインフラの整備については事業者が負担する部分であると以前より言われてきましたが、今後も方針が変わりがないのですか。やはり今のコロナ禍の経済状況を考えると、誘致をするためにはある程度の町財政の負担を考えていかなければ、開発が進んでいかないうかがしてならないのです。そういった面では、道民にいち早く民間活力導入ゾーンについてしっかり認知してもらうためにも、思い切った財政出動が必要な気がしてならないのです。その辺についての担当または町理事者の考えをお伺いいたします。

○委員長（広地紀彰君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 民間活力導入ゾーンについてでございます。条件というよりも、先ほども申し上げましたように企業様が進出して事業を実施していく上で、まだまだ見極めなければいけない状況の中で、インフラ整備分に関わる具体的な条件の話にはなっていない状況でございます。必要性については認識してございますが、まずは現在の来ていただいている数社が今後の中において気にされているのは、多くのお客様が来ているというところの確認といえますか、本当にそこで事業をやっているのかといったところの見極めになっているのではないかと捉えております。まずは、こちら側が用意するので来てくださいということではなく、事業者があくまで事業として成り立つのかどうかというところを見極めておりますので、そういった相談があれば随時受け付ける考えはございますけど、先にこちらが投資をして「来てください」というのはなかなか難しい部分もあるのかと担当としては考えているところでございます。

○委員長（広地紀彰君） 13番、氏家裕治委員。

○委員（氏家裕治君） 私が言っているのは、前もって投資をして「さあどうぞ来てください」というのではなくて、話し合いの中でまちとしてそういった方向性が見いだせるのかを考えているのかということが知りたかったのです。今までの話の中では、なかなかそこまでいかなかったですよ

ね。出店される方が、そこまでの部分をというような考え方が示されていたと思うのですが、その確認だけいたします。先に投資をして、お膳立てして来てくださいというような感覚の話ではないので、そこだけは勘違いしないでほしいのです。

○委員長（広地紀彰君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 捉え方が違っておりましたし申し訳ございませんでした。協議の中ではそういったことも、もしかしたら出てくる可能性はあるのではないかと考えております。ただ、一般的には公募している中でそれであれば進出したいというところもあるかもしれませんので、そういう気持ちを持ちながら、交渉に当たっていきたいと思っているところでございます。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員からの質疑をお受けします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） 質疑なしと認めます。

それでは、これで協議を終了いたします。

次回、本特別委員会の開催日は、正副委員長で調整して別途通知することといたします。

ご異議ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） ご異議なしと認めます。

◎閉会の宣告

○委員長（広地紀彰君） それでは、これをもって本日の特別委員会は閉会いたします。

（午後 2時 3分）